天英院殿従一位藤原朝臣熙子之墓

前関白大政大臣従一位基凞公之女

征夷大將軍贈大政大臣正一位源朝臣家寛公室

寛文八年戊申六月六日生于京師

元文六年辛酉二月廿七日薨葬

二縁山上　　林大學頭信充筆之

亀岡石見彫刻之

天英院様ノ　　公方様ニ御遺物

玉水御壺　　壹

古今和哥集　　一箱　一条為家卿筆

御屏風　　一双　絵四幅七賢　古法眼元信筆

御書棚　　壹　唐木蒔絵

源氏物語　　一箱　久安百首自筆

同年八月晦日帰京泉為久公後列従駕輿ふ被之朝

翌日辞表ハ後拾遺云　是ハ　右京亮長山宿禰任ゝ勅使ゝ下向

為久公辞世ゝ由

思ひきや都を出家名残りに紙衣の袖とぬれんものとは

八月十八夜於江府旅館

見月言志　　和歌　　泉為久

初秋ぬるゝ出ゝ初月と二十日過てむかふ月かけ

旅ねの思ひ寝の床うき枕ゝくもむかふ月かけ

なてうへ孤旅のたりてよはうまうなる秋めつらしくむふ月うけ
鶴ゐる永世を海山と限りも音せぬ秋ゆむふりうけ
うつうへ忘なれ萩の秋を青さうりの色はむふりうけ
さのうちの霧うく虫のゐく音遠さやうきそへてむふ月うけ
鶴ゐく雲ゐさまうぬ秋乃夫月をとくを青とむふ月うけ
山とうへ海を海とう古々のゐうふ雲井ふそうふりうけ
陣りうへ六月のうの鳥乃秋をかそへてもよむふりうけ
なゐれつる月はまの花の秋をきき今年ハ秋はむふ月うけ

八月十三日 旅館　山崎庄

稀よ年とちしこも月乃ちうふハと宮年を見ふ東乃秋

次 島 為久々

宮人乃たまく宮ちう見人月乃宮年のりうふ乃ちよ宮をうかぬ　氏房 戸田右近将監
秋遠き秋はまハの別をの雲ちよりうふ夜乃りよかうふ　信遍 成瀬 道範
かゐうとふ月をうけうふ晴へ宮年のりのうふ　元秋 純 寺町 三郎
君ちよ秋はまうまうふ数年姫乃宮年のりうふりやハせん　祐之 河津 舎人
新なる数年をうそな秋のりかゐう墨ふ思ふ宮年をみうかを　信理 田尾 源右衛門
秋を数年をうくる宮年をそうちへ月の新なりを思ふ　義章 日津 源左衛門
名をみて宮年中の月をは秋はりよりふ夜乃新を偽ふ　尚之 関 粉馬
稀よ年へ人も偽うへその月をりうふ秋乃年矢　信孝 栗村 三右衛門

まれまた〳〵ほかもとまる杉一枚なりて京目の新を海見ん　清基　中川右近
尚むかふ宮まで杉をもて長宮市より近き目我ものへて　祐良　長井玄蕃
かれとも重尺ふ宮を出し海松杉を出し宮原目新ケ　重原　小谷相模
當夏須神原武郎左衛右原ケ尾左文千八百面高詰
五郎に左遠山〳〵世〳〵神原ケ尾と云北山法〳〵
寛保二壬戌年六月十六日松平左近將監陸尺京飯百人大勢
中合蓍屋町市村羽左馬芝居に抱藉いて舞喜弥步
破り給看板を取帰れ右一件
抱陸尺入窪七拾三人　内女人　遠鳴　三人　重遠放　十四人　中遠放
八人　怪遠放　水三人　宮神　十人　敏光
家勢傍賣
半夏賣　七拾八人手鎖
札賣
長勢面賣四人　半夏賣三人　札賣三人
右拾人怪遠放殘り六拾八人　宮藤手鎖
内兎薩元羽左馬戸少仕切陽後人手鎖
内光
同七月十一日中波蓍
松平左近將監抱陸尺　文六　仲右馬
松平伊豆守抱陸尺　權八　權七
板倉伯波守抱陸尺　長四郎
長方芸屋右人〳〵内文六仲右馬長四郎後家令保小孫仲ケ間
一同先月十六日蓍屋町市村羽左馬芝居に押込あはれ〳〵中合
文六後ハ芝居に欠付別〳〵ケ仲右馬權八權七長四郎後ハ
時別迷〳〵芝居にふ〳〵敷出得先五人共看板幕目之小不〳〵有之孫